

# 令和元年度 学校評価報告書

学校名	三田市立ゆりのき台中学校
-----	--------------

## 1 学校教育目標

自立して自分の将来の夢や目標に挑戦しつづける生徒の育成  
～ひとの優しさ、温かさを実感できる学校～

## 2 今年度の学校重点目標

私たちの誇り ふるさと ゆりのき台中学校  
子ども・・・学校が楽しい、この学校が好きと思える学校  
保護者・・・通わせてよかったと思える学校  
地域住民・・・ともに歩んでよかったと思える学校  
教職員・・・勤務してよかったと思える学校

## 3 総合的な自己評価

創立28年目を迎えた本校であるが、子どもたちは、「爽やか」で「懸命」である。加えて、保護者のマナーの良さは本校の誇りである。  
学校評価アンケート（14項目）の結果、「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」とした割合の合計（肯定的評価）は、生徒の2項目を除いて7割以上であった。また、生徒、保護者ともに、「生徒指導」「学校行事」「生徒会活動」「教育相談」「総合」で、肯定的評価が9割以上と高かった。「特色ある学校づくり」「防災教育」は、生徒、保護者ともに肯定的評価が低く、本校の喫緊の課題である。総合評価（「学校生活は充実しているか」）が、生徒、保護者ともに9割超と評価が高い。また、学校や先生への感謝の言葉もみられた。これに奢らず、今後もPDCAサイクルにもとづき、組織的計画的に学校教育の充実に努めたい。  
来年度、三田型コミュニティスクールの指定を受ける。三田市の中学校としては最も遅れての指定である。これを機に、「学校が楽しい、この学校が好きと思える学校（子どもたち）」「通わせてよかったと思える学校（保護者）」「ともに歩んでよかったと思える学校（地域）」「勤務してよかったと思える学校（職員）」を、地域の皆様とともに、目指し邁進したい。

## 4 総合的な学校関係者評価

学校評価アンケートの結果は概ね良好であり、先生方の努力に敬意を表する。しかしながら、「防災教育」と「特色ある学校づくり」が深刻な課題であることは明白である。組織的計画的に取り組みを進めてほしい。  
ゆりのき台中学校の発展を考えるうえで、「図書ボランティア」「緑化ボランティア」の功績は大きい。次年度からはじまる「三田型コミュニティスクール（学校地域運営協議会）」であるが、その礎は学校支援ボランティアの活躍である。ボランティアの活動を、地域、PTA、学校のコーディネーターが三位一体となって、より充実したものにしてほしい。また、学校地域運営協議会を軸として、学校園所の連携を強化することも重要である。  
アンケートに、トイレの整備を望む記述が複数みられた。トイレをはじめさまざまな施設の整備を、教育委員会との連携のもと、利用者目線で推進してほしい。  
教職員の働き方改革も課題である。部活動への地域人材の登用や勤務時間外の対応などについて、三田市教育委員会の指導のもと、工夫と改善に努めてほしい。

## 5 評価結果

分野・領域	自己評価			学校関係者評価
	評価項目（取組内容）	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育課程 学習指導	・「読書活動」「放課後学習」の充実により、主体的に学ぶ子どもの育成を図る。	・「学習タイム（朝学習）」15分間を、1年生は「読書活動」に、3年生は「学習」に、2年生は両方に活用できた。 ・小学校と連携し「さんだっ子読書通帳」を活用することよりの読書意欲の向上と読書量の増加に努めることができた。 ・「ひょうごがんばりタイム」を基礎基本の徹底に特化することができた。	・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、生徒の課題に対応した授業改善を、研究推進委員会を中心に図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の連続性は重要である。「さんだっ子読書通帳」の活用を機に、小学校とのカリキュラム連携を進めてほしい。</li> <li>・まだまだ子どもや保護者には、業者テストによる偏差値等に進路選択を依存する傾向がみられる。学校では、個々の能力・適性・実態を踏まえた進路指導を行ってほしい。</li> <li>・ネット社会では自分のほしい情報は瞬時に得られるが、自分と異なる意見、ものの見方、感じ方が自然に目に入る新聞は、関心が低い事柄をも認識できる貴重なツールである。新聞の重要性を啓発するとともに、読む習慣をつけてほしい。</li> </ul>
	・「新学習システム」による少人数授業の実施により個に応じたきめ細やかな指導を充実する。	・「生徒アンケート」では、各学年ともに、少人数授業を肯定する意見が80%を上回った。	・次年度は、新学習システム加配制度の一部変更により、放課後の少人数指導に支障が生じる。三田市教育研修所の指導のもと、個に応じたきめこまやかな指導について調査・研究を行っていく。	
	・「わくわくオーケストラ」「トライやる・ウィーク」「キャリアノート」などとおして、社会的自立に向けたキャリア教育の充実を図る。	・「わくわくオーケストラ」「トライやる・ウィーク」とともに生徒にとって有意義なものとなったが、「キャリアノート」の活用には課題を残した。	・「キャリアノート」の活用を進めることにより、生徒・保護者の進路への不安を解消するとともに、社会的自立に向けたキャリア教育の充実を図る。	
	・「ALT」や「ICT」機器の活用について研究を進めるなど、グローバル化に対応した教育を推進する。	・授業のみならず、個別指導においても「ALT」を有効に活用できた。生徒の満足度も高い。 ・「ICT」機器、特にタブレットの活用に課題がある。	・ギガスクール構想を見据え、三田市教育研修所との連携のもと、教育のIT化を推進する。	

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に向けて組織的に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートでは保護者、生徒ともに、「いじめ問題」について概ね肯定的な回答を得ることができた。</li> <li>「いじめアンケート」「教育相談週間」を有効に活用し、いじめの早期発見に繋げることができた。</li> <li>いじめ対応については、「いじめ対応チーム」を中心に組織的に対応にあたり、早期に解決を図ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートに、学校のいじめ対応が不適切であるという保護者の意見がみられた。このことを深刻に受け止め、次年度も、いじめの未然防止・早期発見・早期対応・解決に組織的に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめアンケートを活用し、次年度も教育相談週間を継続することにより、いじめの早期発見、解決を図ってほしい。</li> <li>教育委員会の協力のもと、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置時間（日）数の増に努めてほしい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒理解に基づき、子どもひとりひとりを大切にするとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、子どものサポーターの活用を含め、相談・支援体制の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートでは、保護者、生徒ともに「教育相談」についての肯定的回答の割合が高い。</li> <li>スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活躍が顕著であった。子どものサポーターへの信頼も大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内だけではなく地域でも気持ち良い挨拶ができる校風を目指す。</li> <li>アンケートでは、「生活のきまり」（=校則）の緩和を望む記述が複数みられた。生徒会活動と連動して、「生活のきまり」をよりよいものとする。</li> </ul>	
研修（資質向上の取り組み）	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態や身につけさせたい力を精査し、子どもを中心に据えた研究活動を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究推進委員会を毎週行うことにより、PDCAサイクルに基づき組織的に研究を推進することができた。</li> <li>講師を招聘し、新学習指導要領及び授業改善についての研究を行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導要領の変遷により、学校行事の精選を余儀なくされているが、生徒・保護者のニーズに応えるため、教育課程の編成について研究を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態把握を、先生方の直視、時に俯瞰的な総合的判断を大切にすることはもちろんのこと、数値をもとに科学的に分析が行えるよう、研究を進める必要を感じる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領改訂の趣旨について理解を深め、指導方法の工夫改善を図るとともに、「特別の教科 道徳」をはじめ各教科の指導と評価の一体化に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間3回の授業公開週間を設定し、相互研究を図ることができた。</li> <li>「特別の教科 道徳」が実施初年度であった。毎週開催の道徳・人権教育推進委員会を中心に、指導と評価の一体化を図ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領がいよいよ令和3年度に実施となる。次年度（令和2年度）は、学校全体でまた教科ごとに、観点別評価と評定の連続性について研究を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートに、授業や試験の難易度が高すぎるという記述が複数みられた。授業改善及び指導と評価の一体化について研修が必要である。</li> </ul>
保護者・地域住民等との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>三田型コミュニティスクールを目指し、保護者、PTA、関係機関との連携を強化するとともに、学校支援ボランティアの一層の充実を図り、地域とともに歩む学校づくりに組織的に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校支援ボランティアの活性化のため、校内（職員）コーディネーターを置いた。それによりボランティアの活動の幅が広がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度は、三田型コミュニティスクールの指定を受け、地域とともに歩む学校づくりを、地域と一体となり進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの多忙化が社会問題となっているが、地域活動への中学生の参入は地域活性化の鍵である。地域コミュニティと生徒会の連携をより一層強めてほしい。</li> <li>学校ホームページがこまめに更新されているものの、保護者、地域の皆様への認知はまだまだ十分とはいえない。内容の精査が必要である。また、何よりも何が知りたいかについての問いかけこそがコミュニケーションの原点である。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>普段の学校教育活動の公開やホームページの更新など、積極的に情報発信を行い、信頼される学校づくりを推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ゆり中VISION」を新設し、生徒や学校の情報を、生徒や来校された方々に向けて、常時発信することができた。</li> <li>アンケートによると、「開かれた学校づくり」については、保護者、生徒ともに高評価となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「特色ある学校づくり」については、アンケートでの肯定度が、生徒、保護者ともに低く、喫緊の課題と位置付ける。</li> <li>アンケートに、学校のことがよくわからないという保護者の記述がみられた。情報発信の方法と内容の精査を進める。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>役員中心から生徒全体へ、生徒会による地域交流の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートでは、「生徒会活動」の評価が高く、保護者、生徒ともに14項目中上位を占めた。</li> <li>生徒会役員の活躍を賛美する、保護者の意見も多かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会が、三田型コミュニティスクールの運営にかかわることにより、学校の活性化に繋げる。</li> </ul>	
学力向上指導改善プラン	<ul style="list-style-type: none"> <li>PDCAサイクルに基づき、委員会を中心として組織的に、学力向上及び指導改善に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「研究推進」「道徳人権教育」「生徒指導」の3委員会を毎週行い、PDCAサイクルに基づき学力向上と指導改善に務めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度は研究推進体制を強化し、三田市教育委員会指定「奨励研究」を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>三田市教育研修所との連携のもと、ギガスクール構想を推進してほしい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「全国学力・学習状況調査」の結果や定期考査、生徒・家庭アンケート、また日々の子どもの学習や生活状況に基づきプランの充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校学力学習・状況調査は、国語、数学、英語ともに、良好な結果を得ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートに、授業や試験の難易度が高すぎるという記述が複数みられた。授業改善と指導と評価の一体化についての研修を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTの積極的活用により、生徒ひとりひとりの状況に応じた学習指導を進めることが大切である。</li> </ul>